

魅力発信！えひめ農業

令和6年9月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、9月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
9月のトピックス5選	3
水稻収穫適期をリアルタイム発信	3
上浦再編復旧園の新たな土壌流亡対策を関係部署等と協議	3
大阪市場で中予産パクチーの試食 PR.	4
年収1千万円を目指し「儲かる農業交流セミナー」を開催	4
「八西農業者フォーラム2024」開催.	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
農業機械オペレーター養成	6
新居浜西高校で農業に関する出前授業を実施	6
野菜の生産をゲームで学ぶ！新居浜高専生が小学生に出前授業を実施	7
定期的な研修会で基本技術の習得をサポート	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
新規就農者等交流会を開催	8
青年農業者がかんきつのスマート農業技術を視察研修	8
認定農業者がさといもの視察研修を実施	9
県外の販路創出へブランド茶「結の霧ひめ」をPR.	9
■東予地方局 産地戦略推進室	10
データを活用したいちご栽培の増収効果を伝える	10
JA うまで花木苗づくり講習会を開催.	10
■今治支局 地域農業育成室	11
リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した遠隔診断を実施	11
ドローン導入による水稻防除の効率化を支援	11
就農予定者に経営開始前研修を開催	12
いちごの7t取りに向け栽培実証をスタート	12
楽しく儲ける農業の実現に向けた研修会を開催	13
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	13
わな猟スキルアップ第1回現地研修会（大三島）を開催	13
ライム類の栽培のすすめ	14
上浦再編復旧園発スマートアグリ研修会を開催	14
■今治支局 産地戦略推進室	15
しまなみみんなのディッシュ会員の産品がJR松山駅で販売開始	15
いちご高設栽培の導入コストを削減	15
■中予地方局 地域農業育成室	16
新規就農者等が資質向上と仲間づくりに取り組む	16
農業女子が未来型かんきつ整備園で研修	16

「愛媛お手伝いプロジェクト」への参加を企業へ働きかける	17
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	17
農業女子「葉れるや」が西条市の「さくらひめ」メンバーと交流	17
「七折小梅」の安定生産に向け技術対策を指導	18
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	18
雑穀を使用した「ぷちきびカレー」を商品化	18
青年農業者が先輩農家のトマトハウスで研修	19
■南予地方局 地域農業育成室	19
園内作業道と電動一輪車で省力化推進	19
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	20
自動航行ドローンによるくり園防除の実証	20
鬼北地域で儲かる農業を！	20
くり園で収穫作業省力化を実証	21
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	21
わな猟技術向上に向け青年農業者が実地研修を実施	21
■南予地方局 産地戦略推進室	22
北海道の道の駅等と連携した販促活動	22
来年のうめ豊作に向けて対策を再確認！	22
■八幡浜支局 地域農業育成室	23
かんきつ産地の活性化を目指し「スマート農業現地シンポジウム 2024in 愛媛」開催	23
農業女子が京大ゼミ生と意見交換	23
■八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	24
一次産業女子グループがマルシェを開催	24
「内子町フェア in 大阪」販促活動で内子町特産品をPR	24
いちご花芽検鏡技術の習得支援	25
大洲市青年農業者協議会が長浜未来協議会と交流会を開催	25
■八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	26
大野ヶ原にんにく出荷反省会を開催	26
スマート農業技術のもっと身近な活用に向けセミナーを開催	26
■八幡浜支局 産地戦略推進室	27
青ねぎ防除指針の策定と現地視察（夏季研修会）の開催	27
■農産園芸課 企画調整グループ	27
県内女性農業者が一堂に会す交流会を開催！	27
■農産園芸課 高度普及推進グループ	28
いちご花芽検鏡講習会の開催	28
第2回普及指導員野菜調査研究会及びJA 愛媛園芸指導員技術研修会を開催	28

9月のトピックス5選

標 題	水稻収穫適期をリアルタイム発信	機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月19日	場所	西条市、新居浜市
指導対象	リアルタイム農業普及指導ネットワーク登録者（55人）	連携機関	高度普及推進グループ
普及指導内容	<p>○リアルタイム農業普及指導ネットワークを活用し、県オリジナル育成品種「ひめの凜」をはじめとした普通期水稻の収穫適期予想を発信した。</p> <p>○当室では、従来から、管内主要品種の成熟期予測資料を作成し、個別指導に役立てるほか、JA 営農指導員へ提供していたが、今年度からはこれに加え、リアルタイム農業普及指導ネットワークを活用して、高温による収穫期の前進や、早刈り及び刈り遅れの注意喚起などを随時発信していくこととした。</p>		
結果と今後	○管内の気象状況に応じた普通期水稻の成熟期を予測し、適期収穫に役立てることで、高品質米の生産拡大を図り、収益性の高い水田農業の確立を目指す。		

令和6年産ひめの凜の出穂期別収穫適期予測 9月19日 現在

* 農水研出穂予測プログラムから算出した出穂期を基に平均気温から予想した収穫適期である。 東予地方局農業育成室

出穂日	5月20日	5月25日	5月31日	6月5日	6月10日	6月15日	6月20日
出穂日	8月17日	8月19日	8月21日	8月23日	8月24日	8月26日	8月29日
平均気温	25.6	25.7	25.8	25.9	26.0	26.1	26.2
5/19	25.6	25.7	25.8	25.9	26.0	26.1	26.2
5/20	25.7	25.8	25.9	26.0	26.1	26.2	26.3
5/21	25.8	25.9	26.0	26.1	26.2	26.3	26.4
5/22	25.9	26.0	26.1	26.2	26.3	26.4	26.5
5/23	26.0	26.1	26.2	26.3	26.4	26.5	26.6
5/24	26.1	26.2	26.3	26.4	26.5	26.6	26.7
5/25	26.2	26.3	26.4	26.5	26.6	26.7	26.8
5/26	26.3	26.4	26.5	26.6	26.7	26.8	26.9
5/27	26.4	26.5	26.6	26.7	26.8	26.9	27.0
5/28	26.5	26.6	26.7	26.8	26.9	27.0	27.1
5/29	26.6	26.7	26.8	26.9	27.0	27.1	27.2
5/30	26.7	26.8	26.9	27.0	27.1	27.2	27.3
5/31	26.8	26.9	27.0	27.1	27.2	27.3	27.4
6/1	26.9	27.0	27.1	27.2	27.3	27.4	27.5
6/2	27.0	27.1	27.2	27.3	27.4	27.5	27.6
6/3	27.1	27.2	27.3	27.4	27.5	27.6	27.7
6/4	27.2	27.3	27.4	27.5	27.6	27.7	27.8
6/5	27.3	27.4	27.5	27.6	27.7	27.8	27.9
6/6	27.4	27.5	27.6	27.7	27.8	27.9	28.0
6/7	27.5	27.6	27.7	27.8	27.9	28.0	28.1
6/8	27.6	27.7	27.8	27.9	28.0	28.1	28.2
6/9	27.7	27.8	27.9	28.0	28.1	28.2	28.3
6/10	27.8	27.9	28.0	28.1	28.2	28.3	28.4
6/11	27.9	28.0	28.1	28.2	28.3	28.4	28.5
6/12	28.0	28.1	28.2	28.3	28.4	28.5	28.6
6/13	28.1	28.2	28.3	28.4	28.5	28.6	28.7
6/14	28.2	28.3	28.4	28.5	28.6	28.7	28.8
6/15	28.3	28.4	28.5	28.6	28.7	28.8	28.9
6/16	28.4	28.5	28.6	28.7	28.8	28.9	29.0
6/17	28.5	28.6	28.7	28.8	28.9	29.0	29.1
6/18	28.6	28.7	28.8	28.9	29.0	29.1	29.2
6/19	28.7	28.8	28.9	29.0	29.1	29.2	29.3
6/20	28.8	28.9	29.0	29.1	29.2	29.3	29.4
6/21	28.9	29.0	29.1	29.2	29.3	29.4	29.5
6/22	29.0	29.1	29.2	29.3	29.4	29.5	29.6
6/23	29.1	29.2	29.3	29.4	29.5	29.6	29.7
6/24	29.2	29.3	29.4	29.5	29.6	29.7	29.8
6/25	29.3	29.4	29.5	29.6	29.7	29.8	29.9
6/26	29.4	29.5	29.6	29.7	29.8	29.9	30.0
6/27	29.5	29.6	29.7	29.8	29.9	30.0	30.1
6/28	29.6	29.7	29.8	29.9	30.0	30.1	30.2
6/29	29.7	29.8	29.9	30.0	30.1	30.2	30.3
6/30	29.8	29.9	30.0	30.1	30.2	30.3	30.4

出穂日	21.0	1187	1132	1074	1015	955
10/1	21.0	1187	1132	1074	1015	955
10/2	20.9	1208	1153	1095	1036	1006
10/3	出穂日から収穫適期を見てください。					
10/4	※出穂日が不明であれば田植日を参考にしてください。					
10/5	出穂期：昨年より1～2日程度早い					
10/6	収穫期：昨年より2～4日程度早い					
10/7	収穫適期は、稲の出来具合で異なるため、必ず成熟程度から判断してください。					
10/8	18.9	1420	1371	1319	1264	1224
10/9	18.7	1445	1390	1332	1273	1243
10/10	18.5	1463	1408	1350	1291	1261
10/11	18.3	1481	1426	1369	1309	1280

収穫適期予想資料（網掛け部が適期）

注意喚起の内容も貼り付け

標 題	上浦再編復旧園の新たな土壌流亡対策を関係部署等と協議	機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月12日	場所	JA グリーン上浦
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関（10人）	連携機関	今治支局農村整備課、今治市、JA おちいまばり
普及指導内容	○豪雨災害による再編復旧園（盛工区）の一部で、台風による集中豪雨で表土の流亡が発生したことから、支局農村整備課等と現地において、土壌流亡の状況を確認するとともに、流亡防止のために栽植した緑肥作物や排水用に設置した承水路（ソイルセメント）の効果を検証し、新たな流亡対策等を協議した。		
結果と今後	<p>○現地調査で、これまでの対策を施した区画の一部でも土壌の流亡を確認したことから、苗木を植栽しない部分には、バミューダグラス等の種子を挟み込んだ生分解性の植生シート（1m幅）を張るとともに（被覆率25%）、シートを被覆しない植栽場所に近い部分には、イネ科の地力増進作物を播種することとした。</p> <p>○当室では、引き続き、表土の流亡対策を指導するとともに、現在投入中のたい肥による土づくり等を指導することにより、復旧園地の早期成園化を図る。</p>		



新たな土壌流亡対策を協議



植生シート被覆場所を確認



植栽部分へのたい肥投入

標 題	大阪市場で中予産パクチーの試食 PR		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年9月13日	場所	大阪中央青果株式会社 野菜売り場	
指導対象	—	連携機関	県大阪事務所、JA えひめ中央、全農えひめ大阪事業所	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域のパクチーの主な出荷先である大阪中央青果株式会社で、卸及び仲卸業者を対象に試食 PR 活動を実施。 ○この活動は昨年度に引き続き2回目で、今回は栽培困難な夏作から今後本格的に出荷シーズンを迎える中予産パクチーをPRした。 ○「パクチーかき揚げうどん」の試食や産地概要の PR 用パンフレット、うちわ配布、パクチーの取り扱い状況等のアンケートを行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○試食 150 食は 30 分で総て食され、「パクチーのかき揚げはとても美味しく、うどんとの相性も良い」「パクチーは苦手だったが、この食べ方ならば好きになれる」などの声があり好評価であった。 ○業者からは、今年の中予産パクチーについて「品質が良い」との評価が得られたが、夏季の高温と少雨で各産地とも品物が少ない状態で、夏に需要の多いパクチーの更なる増産と、周年安定供給の要望があった。 ○今後も、生産者や関係機関と連携しながら、周年供給体制の強化に加え、取引希望のある仲卸業者と連携し、中予産パクチーの知名度向上と実需創出につなげる。 			
				<p>左：卸・仲卸業者へのかき揚げうどん試食 右：PR 用パンフレットとうちわ</p>

標 題	年収1千万円を目指し「儲かる農業交流セミナー」を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月18日	場所	愛媛県歴史文化博物館	
指導対象	新規就農者、青年農業者、農業高等学校生等	連携機関	八幡浜支局地域農業育成室	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の一環として、南予の新規就農者や青年農業者等を対象に収益を上げるための経営事例や情報を共有する交流セミナーを開催し、145人が参加した。 ○セミナーでは、新規就農者の事例発表や(株)ミヤモトオレンジガーデンの宮本泰邦氏の講演のほか、当室からは、管内6普及拠点ごとの立地条件や現在の生産環境等を考慮した「年収1千万円に向けての新経営モデル(24類型)」を紹介した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○Uターン、Iターンで就農した農業者から、まずは地域を見つめ直すことから経営改善を図っている事例や、経営上の諸問題を放置することなくチャレンジし1つ1つ解決している事例の発表があった。 ○当室では、夢と意欲を持って生産活動を行う新規就農者等に対し、早期に年収1千万円が達成できるよう引き続き支援を行っていく。 			
				
宮本社長の講演		情報発信で地域も売り込む事例発表		セミナー会場の様子

標 題	「八西農業者フォーラム 2024」開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月19日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西地区認定農業者・青年農業者・ 家族経営協定ネットワーク・八西生 活研究協議会員（44人）	連携 機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導 内容	<p>○高齢化等で担い手や労働力が減少する中、自身の経営や栽培技術に関して知見を広げ、かんきつ産地の発展を図ることを目的に、八西地区の農業者4組織が主催する「八西農業者フォーラム2024」の開催を支援した。</p> <p>○フォーラムでは、移住・事業継承に関する講演や事例発表、各組織の活動紹介の他、当室からは地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」のマルドリ実証結果を発表した。またマーマレードの試食を実施するなど、4組織の交流と情報共有を図った。</p>			
結果と今後	<p>○活動紹介や講演を通じて、各会員が「今後のかんきつ産地をどのように発展させるか」を考える機会となった。参加者からは「次世代への継承は急務であり、地域全体で支える仕組みが必要である」「マルドリ実証結果を自園地にどう活かせるか考えさせられた」との声が聞かれた。</p> <p>○今後もかんきつ産地の維持・発展のため、関係機関と連携し各組織活動を支援するとともに、担い手の確保・育成や労働力確保に取り組む。</p>			
				<p>左:フォーラムの様子 右:マーマレード試食</p>

えひめ農業

標 題	農業機械オペレーター養成		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月5日	場所	JA周桑営農管理研修センター	
指導対象	周桑地区集落営農法人オペレーター (16人)	連携 機関	JA周桑	
普及指導 内容	<p>○地域の集落営農法人の代表で組織する「周桑集団長会」と連携し、担い手の農業機械操作等のスキルアップを目的に、研修会を開催した。</p> <p>○当室が企画・運営を支援し、最近の管内農作業事故の事例紹介、農作業事故防止のポイントを説明した後、VRゴーグルによる乗用型トラクター転倒事故を疑似体験した。</p> <p>○また、大型農業機械の公道走行に必要な大型特殊免許の取得方法や、農業分野での農作業安全対策を図る雇い入れ時教育が必要になったことを説明した。</p>			
結果と 今後	<p>○農作業時に「ヒヤリハット」の経験がない参加者が多かったが、疑似体験等により、機械操作時の安全への意識を高めることができた。</p> <p>○周桑地区では、農作業オペレーターが高齢化しているため、今後も、新たな人材育成のための研修会の開催や情報提供を継続する。</p>			
				<p>左：トラクターの点検実演 右：VRゴーグルで農作業事故体験</p>

標 題	新居浜西高校で農業に関する出前授業を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月20日	場所	県立新居浜西高校	
指導対象	県立新居浜西高校生(16人)	連携 機関	県立新居浜西高校	
普及指導 内容	<p>○高校生を対象に、農業への関心を高め、理解促進を図ることを目的に、出前授業を実施した。</p> <p>○生徒自身が研究を行う「総合的な探求の時間」の授業において、テーマ選択をするうえで重要となる農業を取り巻く現状と課題について情報提供を行ったほか、県の普及指導員の業務内容や農業の魅力を紹介した。</p>			
結果と 今後	<p>○授業を受けた高校生からは、農業が抱える課題や、その対応策として県で取り組んでいる活動について、理解を深めた様子が見られた。</p> <p>○今後、高校生からの疑問や要望などがある場合は、細やかに対応していく。</p>			
				<p>左：農業の現状と対応策の説明 右：仕事内容の説明</p>

標 題	野菜の生産をゲームで学ぶ！新居浜高専生が小学生に出前授業を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月24日	場所	西条市立神戸小学校	
指導対象	西条市立神戸小学校生（25人）	連携機関	新居浜工業高校専門学校、JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○地方局予算事業「デジタルを活用した地産地消・食農教育推進事業」の一環で、地域特産物の理解促進とデジタルの一層の活用を目的に、同校学生が開発した「作物育成シミュレーションゲーム」を体験する出前授業を実施した。</p> <p>○授業では、地域特産野菜「絹かわなす」について、生産者が特徴や作り方を説明し、その後、学生がゲームの流れや操作を教えるなどして交流を図った。</p>			
結果と今後	<p>○小学生は、「絹かわなす」の生産過程をクイズやゲームで楽しみながら学び、生産者や高専生に積極的に質問するなど、農業への興味・関心を深めた様子が窺えた。</p> <p>○当室では、地産地消と食育を推進する重要なコンテンツとしてデジタルを位置づけ、今後も、生産現場と教室をリアルタイムでつなぎ、遠隔で授業を行う「デジタル農業体験」などの食育活動を展開していく。</p>			



ゲームの流れを説明する学生



ゲームの操作を学ぶ小学生

標 題	定期的な研修会で基本技術の習得をサポート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月24日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（29人）	連携機関	新居浜市、西条市、JA（えひめ未来、周桑）、日本農業新聞ほか	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者及び就農予定者が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、農業経営に必要な基礎知識や基本技術の習得を行うために「就農初期農業者研修会」を定期的に開催している。</p> <p>○今年度第5回目として、新聞記者から「情報発信・収集力について」、肥料関係会社から「土づくりについて」講演したほか、農薬取締法の概要等の情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、「堆肥の果たす役割がいかに重要であるか分かった」「農業経営には、栽培技術以外に必要な知識が多くあることが分かった」などの感想に加え、「今後もこのような機会を通じ、知識を習得したい」と意欲を見せる声があった。</p> <p>○当室では、今後も関係機関と連携し、充実した内容の研修会を開催していく。</p>			



左：講演「農業と農業新聞と私」

右：講演「有機物を活用した土づくり」

標 題	新規就農者等交流会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年9月10日	場所	四国中央市新宮町	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会会員 (8人)	連携 機関	四国中央市、えひめ農林漁業振興機構	
普及指導 内容	<p>○青年農業者同士の交流を深め、技術研鑽を図りながら地域リーダーとして育成することを目的に、同協議会と連携し、新規就農者等交流会の開催を企画、運営支援した。</p> <p>○同交流会は、同市新宮町の霧の森と霧の高原を会場として開催し、東予3地区の青年農業者が一堂に会して、情報交換や技術力向上を図った。</p> <p>○霧の森では普段経験できない手もみ茶体験や新宮茶の飲み比べを、霧の高原では会員が持ち寄った農畜産物でBBQを行い、それぞれの製品のこだわりを披露した。</p>			
結果と 今後	<p>○会員は、普段接することが少ない他地区の青年農業者と交流を深め、経営の特徴や技術情報を積極的に交換するなど、今後の農業経営の参考になった様子。</p> <p>○当班は、引き続き青年農業者の活動を支援し、地域における中心的なリーダーに育成することを目指す。</p>			
				<p>左：手もみ茶体験 右：BBQで情報交換</p>

標 題	青年農業者がかんきつのスマート農業技術を視察研修		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年9月12日	場所	八幡浜市、東温市、松山市	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会 果樹部会員 (3人)	連携 機関	JA うま	
普及指導 内容	<p>○当室は、会員のスマート農業技術の知識を向上させ、自身の農業経営に生かすことを目的に、かんきつのスマート農業技術の視察研修を企画、実施した。</p> <p>○八幡浜市川上地区の温州みかん園では、気象ロボットの活用状況について、同市川之石地区では、開発業者のデモ施設においてAI選果機の処理能力等を研修した。</p> <p>○また、東温市の日本ディーアールシステム(株)では、農業用ドローンの性能や防除効果を研修したほか、松山市鷹子地区のかんきつ園でドローンによる散布実演を見学した。</p>			
結果と 今後	<p>○会員は、AI選果機の品質判別能力やドローンの防除効果、導入費用等について熱心に質問するなど、スマート農業技術による省力化や、高品質生産に関する知識向上につながられた様子が窺えた。</p> <p>○今後、急速に進歩するスマート農業技術について適宜情報提供を行うとともに、特に会員の関心が高かった農業用ドローンの散布実演会を開催する予定。</p>			
				
気象ロボットの活用を研修		AI選果機の性能を研修		ドローンによる散布実演

標 題	認定農業者がさといもの視察研修を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年9月24日	場所	松山市衣山、津吉	
指導対象	四国中央認定農業者等連絡協議会 土居・三島支部会員（9人）	連携 機関	JA うま	
普及指導 内容	<p>○当班は、さといも栽培の生産性向上や加工利用技術について研鑽するため、松山市の関連事業者の取組状況等の視察研修を企画、実施した。</p> <p>○株式会社アテックスでは、運搬機械やラジコン草刈機の性能等を視察し、省力化技術等について研修した。</p> <p>○また、(株)中温では、さといもの一次加工品や、ほ場に廃棄されている親芋を利用した加工品開発の現状と消費動向等について意見交換した。</p>			
結果と 今後	<p>○会員にとって、草刈り作業やさといもの運搬作業は労働負荷が大きく、今後、機械化による省力化や軽労化に向けた取組みが重要であることを再認識した。</p> <p>○(株)中温が開発したさといも加工品の売上が毎年10%増えている現状からも、消費者は料理の時間短縮や生ごみの発生量が少なくなる加工品を求める傾向にあることがうかがえる。</p> <p>○親芋の加工利用により、ほ場に廃棄していた物が換金できるとともに、土壌病害の軽減にもつながることから、生産者の生産意欲の向上が期待できる。</p>			
				<p>左：運搬車の性能や操作方法を研修 右：加工会社で意見交換</p>

標 題	県外の販路創出へブランド茶「結の霧ひめ」をPR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年9月26日～28日	場所	東京都内 百貨店と茶専門店	
指導対象	うま茶振興協議会茶業販促グループ	連携 機関	四国中央市	
普及指導 内容	<p>○四国中央市産「うま茶」のイメージ向上と販路拡大のため、「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業（県単）」を活用し、首都圏への販促活動を支援した。</p> <p>○(有)協製茶場が中心となり、都内2店舗の催事に参加し、ブランド茶「結の霧ひめ」や新たに開発した紅茶商品等を試飲、販売し、PR活動に取り組んだ。</p>			
結果と 今後	<p>○消費者からは、「甘みを感じる。とてもおいしい」「香りが豊かで飲みやすい」等の意見が聞かれ、味と香りの魅力を引き立て、購買意欲等を高める工夫が功を奏した。</p> <p>○11月には、大西茶園が、宮城県と広島県の百貨店の催事に出席を予定しているため、当班では、引き続き、販売店のコンセプトに合わせた商品開発や、セールスプロモーション等、生産者の新たな販路開拓に向けた活動を伴走支援し、「結の霧ひめ」をはじめ、「うま茶」の認知度向上や販路拡大に取り組む。</p>			
				<p>左：都内百貨店で「うま茶」をPR 右：お茶専門店で「うま茶」の魅力をPR</p>

標 題	データを活用したいちご栽培の増収効果を伝える	機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年9月4日	場所	西条市丹原町池田
指導対象	東予東部いちご生産者等（15人）	連携機関	JA（周桑、東予園芸、えひめ未来、うま）、農産園芸課、農水研、メーカー
普及指導内容	<p>○栽培環境モニタリングデータを活用した栽培技術に関する理解を深め、同技術の導入機運を高めるために、昨年度実施した実証プロジェクトの活動内容や成果等を紹介する報告会を開催した。</p> <p>○また、プロジェクト取組生産者の感想や、未導入生産者が意見を述べる時間を設け、相互の意見を交えながら技術の有用性についての理解を促した。</p>		
結果と今後	<p>○報告会后に実施したアンケートでは、内容に満足したと回答した生産者は100%、同技術について理解できたと答えた生産者も100%と、実効性の高い会となった。</p> <p>○今年度、同技術の普及面積は、1.9ha→2.7ha（R5→R6）に増加しており、実証プロジェクトも取組生産者を4人→6人に増やして、より高度な指導を行う予定。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>技術の概要を説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>取組生産者が感想等を報告</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>栽培環境モニタリング装置</p> </div> </div>			

標 題	JA うまで花木苗づくり講習会を開催	機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年9月25日	場所	JA うま本店
指導対象	JA うま花木生産者（4人）	連携機関	JA うま 四国中央農業指導班
普及指導内容	<p>○新規栽培者2名と既存栽培者2名を対象に、3品目の花木の苗づくり講習会を実施。</p> <p>○JA うまで産地化されている「ピットスポラム」と新規導入予定のユーカリ「ポリアンセモス」では挿し木、「銀葉アカシア」では播種方法の指導を行った。</p> <p>○講習会では、参加者が挿し穂の調整方法や挿し用土の配合、アカシアの発芽率を高めるための種子処理等を体験し、作業のポイントを学んだ。</p> <p>○また、当局四国中央農業指導班から、先月、「(株)大田花き」で実施した市場動向調査報告を行い、従来需要が少なかった夏においても、近年は花木の需要が高まっている等の情報提供を行った。</p>		
結果と今後	<p>○講習会で挿し木や播種をした育苗トレイは各自農家が持ち帰り管理することとしており、引き続き、育苗管理指導を行いながら自家育苗技術を習得させることで、栽培面積拡大に繋げていく。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>挿し木の概要や視察結果の報告</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>挿し床の配合説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>挿し穂の調整</p> </div> </div>			

標 題	リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した遠隔診断を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月9～20日	場所	今治市上浦町	
指導対象	「紅プリンセス」生産者	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○JA の営農指導員から、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムに、「紅プリンセス」の果皮障害について診断依頼があったことから、現地映像を基に遠隔診断を行い、後日、現地で対処方法等を指導した。			
結果と今後	○送られてきた写真を拡大すると、①油胞（とくに新生）の陥没が認められ、②陥没地点周辺で褐変が認められることから、日焼けによる症状と診断した。 ○また、後日の園地確認でも、夏季レモン等と類似した油胞陥没からの褐変という症状が確認されたため、現地で営農指導員に対し詳細な説明、指導を行った。 ○管内では、営農指導員から同システムを活用した相談が徐々に増えており、当室では引き続き同システムの活用を推進するとともに迅速な診断、指導を実施する。			
 <p>室内でのシステムを活用した遠隔診断</p> <p>上段：果皮表面の投稿写真アップ 下段：現地果実（11日後）</p> <p>現地確認するとともにJA 指導員に説明</p>				

標 題	ドローン導入による水稲防除の効率化を支援		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月3、7日	場所	今治市大西町	
指導対象	(有) こんばら	連携機関	今治市、JA おちいまばり	
普及指導内容	○経営の継承と発展に向けて取り組む集落営農組織に対し、スマート農機の活用による作業の効率化を目的に、ドローンを操作するオペレーター（3人）を育成するため、試験運転等を支援するとともに、その効果を調査した。 ○同法人は、食味や品質を重視した栽培に取り組み、生産したコメのほぼ全量を地元造船会社やその社員、地元飲食店等に直接販売しており、本年度からは中生品種を全面的に「ひめの凜」に切り替えている。			
結果と今後	○ドローン防除により、労働時間や農薬などの防除経費を従来の約半分に抑えることができた。 ○同法人は、ドローンの有効活用による省力化を進めるため、近隣の農業者に対し、防除作業の受託を拡大する予定で、当室は引き続き、地域農業の維持、発展に向け、同法人の取組を支援していく。			
 <p>作業前に機体を点検</p> <p>若手社員による初防除</p> <p>水稲の防除作業の様子</p>				

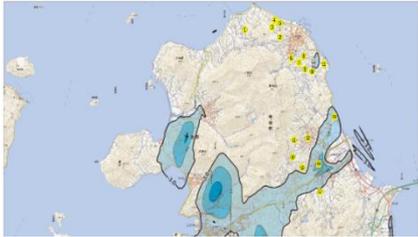
標 題	就農予定者に経営開始前研修を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月4日	場所	今治支局	
指導対象	就農予定者（13人）	連携機関	日本公庫、今治市、上島町、JA（おちいまばり、今治立花）、農業共済組合	
普及指導内容	<p>○JAの研修施設等で生産技術を習得中の研修生等を対象に、農業経営開始時に必要な認定新規就農者制度や制度資金・補助事業等の活用に向けた研修会を開催した。</p> <p>○各担当機関から、就農初期に必要な資金や補助事業の活用について説明。当室からは、就農に向け、各自が将来目指す経営ビジョンや目標を明確にし、綿密な青年等就農計画書を作成すること等の重要性を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「経営開始に向け事業計画を立てる必要性が理解できた。」「制度資金や補助事業等の情報を得ることができ、就農に向けた準備を進めることができる。」等の感想が聞かれた。</p> <p>○当室は、新規就農者の仲間づくりを目的とした情報交換会を11月に開催することとしており、今後も、関係機関と連携し、就農者をしっかりサポートできる支援体制を強化していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>補助事業導入に係る質疑</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新規採用職員も説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>個別相談に対応</p> </div> </div>				

標 題	いちごの7 t 取りに向け栽培実証をスタート		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月11、25日	場所	今治市中寺	
指導対象	農事組合法人サポート中寺	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○いちごの高収益化に向け、高設栽培の培地組成や点滴チューブ、養液の濃度が異なる実証区を設置するとともに、品種特性の異なる「紅い雫」、「紅ほっぺ」を定植し、高収量確保に向けた栽培実証をスタートした。</p>			
結果と今後	<p>○当室は、栽培実証を通して培地やかん水量、養液濃度の違いが収量や果実品質等に及ぼす影響や、品種特性に合った栽培管理等を調査し、反当7 t 収穫を可能にする生育条件等について考察していく。</p> <p>○なお、実証に取り組む集落法人は、大型直売所「さいさいきて屋」に隣接した圃場にハウスを新設しており、12月から観光農園をオープンする。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>4種類の培地区を設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高濃度区用に養液混入機を増設</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実証区の定植作業</p> </div> </div>				

標 題	楽しく儲ける農業の実現に向けた研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月18日	場所	今治市伯方町	
指導対象	農業研修生・女性農業者等(19人)	連携機関	株式会社マキタ、今治市、JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○農業機械導入による作業の効率化について理解を深めることを目的に、楽しく儲かる農業の実現に向けた農作業安全研修会を開催した。</p> <p>○研修では、新規採用職員が農作業安全対策について説明。</p> <p>○事故防止に向けた注意喚起を行ったほか、軽量で女性でも扱いやすい電動農機を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○電動農機の体験で作業の負担軽減を実感。機械化は導入コストが課題となるが、作業効率の大幅な改善につながり、省力化のために園地改良を検討する声も上がった。</p> <p>○農作業事故は他産業平均よりも多く、誰の身に起きてもおかしくない現状であることから、今後も農作業安全について啓発していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>電動農機を体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スピードプレーヤーに試乗</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>農作業安全対策を説明</p> </div> </div>				

標 題	わな猟スキルアップ第1回現地研修会（大三島）を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年9月17日	場所	今治市大三島町宮浦	
指導対象	青年農業者（4人）	連携機関	農産園芸課 鳥獣害対策係	
普及指導内容	<p>○若手狩猟者の育成プログラム（（県）わな猟スキルアップ実践事業）を受講する大三島の青年農業者が、わな猟の技術を習得するための害獣捕獲現地研修会に参加した。</p> <p>○事前に設置した「箱わな」の配置や餌付け方法等について、専門家の指導を受けながらポイントを確認。設置場所の選定や獣種に応じた対応の必要性を学んだ。</p> <p>○また、各々が6月の研修会で作製した「くくりわな」を現地に設置し、専門家から場所の選定や覆土、地面の高さなど、最適な設置方法についてアドバイスを受けた。</p>			
結果と今後	<p>○受講生は、自ら考えてわなの設置や作動確認を行い、他の受講生等に説明することで、イノシシ等の生態に基づく効果的な捕獲技術について、認識を深めた。</p> <p>○今後も引き続き、青年農業者等の捕獲技術の向上と鳥獣害対策の推進に向けて支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right;">左：現地研修の様子 右：くくりわなの設置（受講生）の様子</p>				

標 題	ライム類の栽培のすすめ		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年9月19日	場所	岩城駐在所会議室	
指導対象	上島町岩城のレモン栽培者（22人）	連携機関	(株)いわぎ物産センター、 JAおちいまばり岩城購買店舗	
普及指導内容	<p>○レモン農家への出荷説明会を利用してライム類の栽培推進講座を開催し、ライム類の国内流通の現状と栽培上の課題及び栽培方針を説明した。</p> <p>○推奨3種（タヒチ、メキシカン、フィンガー）の生育特性と課題等を解説。ハウスレモン栽培に加えて数本の植栽をすすめ、しまなみ香酸かんきつ産地のイメージアップを狙う。</p>			
結果と今後	<p>○ライム類は、着果率が低く収量性が劣る、トゲが多いなどの課題があるものの、レモンと比較して国内生産量が少なく希少性があることから、当班では引き続き栽培者の掘起こしを行っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ライム類の品種特性についての説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>実物展示による意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>メキシカンライムの結実状況</p> </div> </div>				

標 題	上浦再編復旧園発スマートアグリ研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年9月19日	場所	JAグリーン上浦 会議室	
指導対象	新規就農研修生等（6人）	連携機関	JAおちいまばり、農産園芸課（高度普及推進グループ）	
普及指導内容	<p>○新たに柑橘農業を志す研修生とスマート農業技術を取り入れた未来型果樹農業の取り組みを共有する研修会を開催した。</p> <p>○当班からは、スマート農業機器の活用事例を紹介するとともに立地条件や栽培管理等を適応させることの重要性を説明。また、柑橘適地マップ（令和5年作成）を活用した低温遭遇リスクの分析結果を共有し、栽培品種の適地性についても理解を深めた。</p> <p>○農産園芸課からは、県リアルタイム農業普及指導ネットワークの利用方法について説明があり、システムの利用を実際に体験した。</p>			
結果と今後	<p>○新たに就農予定の研修生は、導入コスト等を考慮し、自身の柑橘経営の発展段階に応じたスマート農業機器の導入が必要との認識を示した。</p> <p>○当班では、今後も、同技術を活用した未来型果樹農業の実現に向けて支援を行う。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>厳冬期の気温低下の予想図 大三島 (最低気温-3~-5℃の想定地域)</p>  </div> <div style="text-align: right;"> <p>左：研修会の様子 右：柑橘適地マップ (■：研修ほ場)</p> </div> </div>				

標 題	しまなみみんなのディッシュ会員の産品が JR 松山駅で販売開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 6 年 9 月 29 日	場所	JR 松山駅	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員	連携機関	南海放送サービス（株）	
普及指導内容	<p>○ 9 月 29 日に開店した JR 松山駅内店舗「愛媛主義 Selected by 南海放送」で、しまなみみんなのディッシュ会員 8 事業者の産品の販売が始まった。</p> <p>○ 販売店舗を運営する南海放送サービス（株）に対し、当室が売り込みを行った結果、会員の産品が取り扱われることとなったものである。</p>			
結果と今後	<p>○ 当日は、改装工事が完成した JR 松山駅のオープン日でもあり、多くの買い物客や旅行者などで込み合っており、早速、多くの客がジャム等のかさばりにくい産品を中心に買い求めていた。</p> <p>○ 当室は、来年 3 月までの販売期間中の購買データを活用し、新たな産品開発や有利な販売方法を会員へ指導する予定。</p>			
				
	買い物客で溢れる店内	販売産品		

標 題	いちご高設栽培の導入コストを削減		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 6 年 9 月 19 日	場所	今治市朝倉地区	
指導対象	いちご生産者（3 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○ いちごの高設栽培に取り組むには、高設台設備や培土の導入コストが課題である。</p> <p>○ そこで、高設台は廃ハウスのパイプ資材を再利用して作製し、培土は堆肥ともみ殻を混ぜて自家配合することでコスト削減を図った。</p>			
結果と今後	<p>○ 高設台作製コストを 82%、培土コストを 93%削減することができた。</p> <p>○ 今後は、今回の導入が生育や収量に及ぼす影響の有無を調査・確認するとともに、現地見学会などを開催し、普及・拡大を進める。</p> <p>○ また、単肥配合施肥によるコスト削減や、安価な環境モニタリング、昇温抑制のための暖房機送風機能を利用した外気導入、地中温湯加温の導入などによる生育促進・収量増加にも取り組む。</p>			
				
	廃ハウスの資材を加工	廃ハウス資材で高設台を作製	堆肥ともみ殻で培土を自家配合	

標 題	新規就農者等が資質向上と仲間づくりに取り組む		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月9日	場所	中予地方局	
指導対象	松山地区青年農業者連絡協議会会員(8人)及び非会員(6人)	連携機関	松山市、東温市	
普及指導内容	<p>○松山地区青年農業者連絡協議会は、新規就農者等の資質向上と仲間づくりを目的に交流会を開催。</p> <p>○参加者の資質向上を目的に、肥料・農薬の基本的な内容や使用上の注意事項のほか、土壌診断に基づく効果的な施肥や農薬の適正使用などについて研修した。</p> <p>○グループディスカッションでは、新規就農者の経営上の悩みなどについて、同協議会会員が経験を基にアドバイスを行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、経営管理や労働力確保、農地等について情報共有がなされるとともに、花木等を加えた複合経営による収益増加の提案もあり、新規就農者等の日頃の不安を解消することができた。</p> <p>○参加した新規就農者2人が同協議会への入会意向を示しており、引き続き非会員の加入を啓発する。</p>			
		<p>左：肥料・農薬を学ぶ新規就農者等 右：経営上の悩みについてグループディスカッション</p>		

標 題	農業女子が未来型かんきつ整備園で研修		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月17日	場所	松山市下難波	
指導対象	姫たちばな会員(8人)	連携機関	農村整備第二課	
普及指導内容	<p>○中島本島では、「畑地帯総合整備事業」によるかんきつ園の整備(7.0ha)が進められており、女性農業者から整備後の早期成化に向けた栽培管理を学びたいとの要望があったことから、下難波地区かんきつ基盤整備園で、苗木定植後の管理について研修会を開催。</p> <p>○研修会では基盤整備の概要を説明したほか、当室が取組んでいる草生栽培による土づくりについて、苗木の生育状況を確認しながら指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者らは、整備直後の園地では、土壌流亡対策の面でも土づくりが重要であること、苗木管理においては、施肥・防除に加え、芽かぎ・摘心や誘引などの新梢管理を徹底することで、生育に大きな差が生じることを実感し、自らの経営に活かすこととした。</p> <p>○今後、他地区の女性農業者組織の優良活動事例等を研修し、更なる資質向上を支援する。</p>			
<p>【姫たちばな】 中島地域の女性農業者で構成。 技術研修や先進地視察などを通して資質向上に取り組む。</p>		<p>【草生栽培】 果樹園の地表面に下草を生やして土壌を管理する栽培法。土壌への有機物供給、土壌の浸食防止効果などが期待される。</p>		
				<p>基盤整備園で苗木管理について研修</p>

標 題	「愛媛お手伝いプロジェクト」への参加を企業へ働きかける		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月4日～5日	場所	松山市内	
指導対象	—	連携機関	株式会社 VOCE	
普及指導内容	<p>○中予地域のかんきつ収穫等の労働力を確保のため、管内においても本年10月から有償ボランティア「愛媛お手伝いプロジェクト」を開始。</p> <p>○そこで、同プロジェクトへの参加を促すため、企業3社（愛媛銀行、大和ハウス工業、愛媛信用金庫）を訪問し、生産現場における労働力不足の現状や同プロジェクトのシステムを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○企業からは、「地域農業を守るため、職員に対して参加を呼びかけたい」「当社の地域共生活動の一環として参加したい」との声を頂いた。</p> <p>○今後も、最も労働力を必要とする伊予柑等の収穫期（12月～）に向け、管内主要企業はもとより学生、県職員等に対してもボランティアへの参加を働きかける。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：「愛媛お手伝いプロジェクト」のパンフレット</p> <p>右：有償ボランティアによるかんきつ収穫作業</p> </div> </div>				

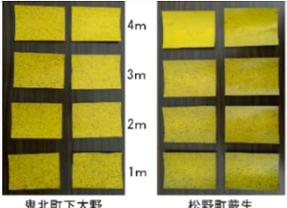
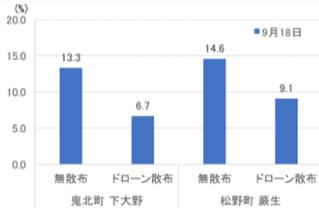
標 題	農業女子「葉れるや」が西条市の「さくらひめ」メンバーと交流		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年9月26日	場所	西条市丹原町	
指導対象	女性農業者組織「葉れるや」会員（8人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○伊予地区の一次産業女子ネットワーク「さくらひめ」メンバーで構成された「葉れるや」が、西条市の「さくらひめ」会員と交流。</p> <p>○西条市の会員は、農作物の栽培管理や販売、消費者との交流等の部門において、夫婦で役割分担を決めており、経営の強みとなっていることを学んだ。</p> <p>○また、古民家を改修した一棟貸し民宿の運営や農村景観の保存について情報交換し交流を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○「葉れるや」のメンバーは、女性の活躍の可能性について学び刺激を受け、夫婦の役割分担について改めて考える機会になった。</p> <p>○さらに、「自分たちが気付かない地域の未利用資源について見直すきっかけとなった」と語った。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：女性の活躍について意見交換</p> <p>右：古民家を改修して整備した一棟貸し民宿「縁側とき」</p> </div> </div>				

標 題	「七折小梅」の安定生産に向け技術対策を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年9月30日	場所	砥部町七折集会所	
指導対象	ななおれ梅組合員（15人）	連携機関	JA えひめ中央、砥部町	
普及指導内容	<p>○今年度の「七折小梅」の生産量が、過去最低の4.7t（平年比7%）の不作となったことを受け、来年度の安定生産に向けて、定期的に栽培技術等の勉強会を開催することとした。</p> <p>○第1回は、生育過程に応じた適期施肥や老木の改植、幼木の適正管理を指導するとともに、生理落果を抑制するための液肥の試験結果を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○組合員は、技術対策について活発な意見を交わし、意識を統一した。</p> <p>○また、8月に団体で認定を受けた環境負荷低減事業活動実施計画に基づくエコファーマーの取組みについて、施肥や防除体系等の指導を行う。</p> <p>○次回は、10月に安定生産に向けたせん定講習会を実施予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">左：勉強会で技術対策を指導 右：令和6年産着果不良の小梅</p>				

標 題	雑穀を使用した「ぷちきびカレー」を商品化		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年9月5日	場所	道の駅「天空の郷さんさん」	
指導対象	県立上浮穴高校生（6人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○当班と連携して雑穀の活用をすすめている上浮穴高校は、町内でスパイス製造等を行っている事業者（ワンループクリエイティブ）と共同で、カレーの具材セット「ぷちきびカレー」を商品化し、道の駅「天空の郷さんさん」で販売を開始。</p> <p>○「ぷちきびカレー」は10種類以上の乾燥野菜や地とうきびとたかきび、別包装のスパイスが同封された具材セットで、水を加えて煮詰めるだけで雑穀カレーを味わうことができる（1パック1,300円）。</p> <p>○当指導班では、たかきびの原料調整や商品化に向けサポートした。</p>			
結果と今後	<p>○「ぷちきびカレー」はキャンプ用の食事等の需要が期待されるほか、非常食としての用途も検討しており、町内外へのPRを展開する。</p> <p>○今後も雑穀の生産振興や新たな加工品開発により、地域食材のブランド化や消費拡大を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">左：「ぷちきびカレー」の製作 右：商品化された「ぷちきびカレー」</p>				

標 題	青年農業者が先輩農家のトマトハウスで研修		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年9月27日	場所	久万高原町内トマトハウス	
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会員 (4人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○青年農業者会員のトマト栽培技術のスキルアップと協議会活動の活性化を目的に「先輩農家ハウス見学会」を開催。</p> <p>○見学会では、現地で実際の栽培状況を確認しながら研修し、近年の高温対策に向けた昇温抑制技術や新品種について意見交換した。</p>			
結果と 今後	<p>○新規就農者や就農研修生は、就農に向けた悩みや栽培を先輩農家へ熱心に聞き、不安や悩みを解消できた。</p> <p>○先輩農家は、会員に対して協議会活動の意義や地域とのつながりを持つ大切さを伝えた。</p> <p>○次回は農業経営に関する勉強会を開催予定。</p>			
				<p>左：先輩農家が協議会活動についてアドバイス 右：トマトの安定生産技術を学ぶ</p>

標 題	園内作業道と電動一輪車で省力化推進		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年9月9日	場所	宇和島市吉田町玉津	
指導対象	かんきつ生産者(3人)	連携 機関	南予地方局農村整備課 県土地改良事業団体連合会	
普及指導 内容	<p>○宇和島市のかんきつ園は急傾斜かつ山なりの園地が多いため、横移動が困難である。</p> <p>○災害に強い園地整備手法確立事業で水路兼用の園内道が整備されたことから、電動一輪車を活用した運搬作業の軽労働化について、生産者を対象に移動時間や疲労度を測定した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「園内道は通りやすかった」「疲労の具合が少なかった」などの意見があった。</p> <p>○今後は収穫時の調査を実施し、データ収集を行うとともに、自力施工による簡易園内道設置も推進し、当地区に応じた省力化を推進する。</p>			
				<p>左：山なり園での荷運びの様子 右：整備された園内道</p>

標 題	自動航行ドローンによるくり園防除の実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年9月2日	場所	鬼北町下大野、松野町蕨生	
指導対象	くり生産者	連携機関	JA えひめ南、鬼北町、松野町、ドローンワークス宇和島	
普及指導内容	<p>○果樹の防除においてドローン活用は省力効果が高いが、管内のくり園は急傾斜のうえ、高い雑木に囲まれている園地が多く、目視による航空防除が難しい。</p> <p>○そこで、移動式 RTK（位置情報基準点）を用いた高精度自動航行によるドローン防除の実証試験を2園地で実施した。</p> <p>○今回は収穫間際に果実を加害する害虫に対する薬剤を散布し、薬剤の付着状況や果実の被害状況を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○薬剤の付着状況は高さによらずほぼ均一に付着しており、果実の害虫被害率は無散布区14.0%に対しドローン区7.9%と、正品率の向上が確認できた。</p> <p>○園主からは、夏場に長いホースを引きずっての急傾斜の上がり降りは大変な作業だが（6時間以上）、ドローンではすぐに終わった（20分程度）と話していた。</p> <p>○今後は関係機関とともに、自動航行のための2D測量費用（初回のみ）負担の軽減等について協議し、中山間地域へのドローン防除の普及につなげていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>自動航行運航図（松野町蕨生）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>農薬の付着状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>果実の害虫被害率</p> </div> </div>				

標 題	鬼北地域で儲かる農業を！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年9月10日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	新規就農者、認定農業者等（51人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○当班は、新規就農者の定着及び安定した農業収入の確保に向け、「儲かる農業鬼北地区交流セミナー」を開催した。</p> <p>○近年の温暖化を逆手に取り、冷涼な鬼北地域への導入を実証している「紅まどんな」や「シャインマスカット」の栽培方法、くりのドローン防除の実証状況などを当班が説明し、あわせて実証園地を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「それぞれの栽培方法を理解することができた」「高収益を目指し経営に取り入れたい」などの声があり、高収益品目の導入に興味を示していた。</p> <p>○引き続き、就農間もない農業者へのきめ細かな相談対応や技術・経営指導を行い、経営安定による地域への早期定着につなげていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：「紅まどんな」の説明を真剣に聞く参加者</p> <p>右：「シャインマスカット」栽培状況を見学する参加者</p> </div> </div>				

標 題	くり園で収穫作業省力化を実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年9月20日	場所	鬼北町小倉	
指導対象	(株) アグリサポート鬼北	連携機関	JA えひめ南、鬼北町、松野町	
普及指導内容	<p>○管内のくり生産者は高齢化が進んでおり、急傾斜の園地で収穫かごを背負ってくりを収穫しながらの園地移動は、大きな負担になることから、収穫ネットの設置による収穫作業の省力効果について実証した。</p> <p>○収穫ネットを設置することにより、収穫途中でもくりをネット上に転がすことで、1か所に集めることができるため、作業負担の軽減が期待できる。</p>			
結果と今後	<p>○収穫ネットを設置していない区と比べて、移動時間の割合が14.6%削減できた。</p> <p>○収穫ネットを設置すると、横移動での作業が中心となり、急傾斜の上り下りが削減でき、軽労働化が図られた。</p> <p>○今後は関係機関と連携して、結果を周知するとともに収穫ネットの導入を推進する。</p>			
			<p>左：収穫ネットを設置 右：収穫したくりを投げ込む</p>	

標 題	わな猟技術向上に向け青年農業者が実地研修を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年9月30日	場所	青年農業者ほ場	
指導対象	青年農業者（5人）	連携機関	農産園芸課 (株) 野生鳥獣対策連携センター	
普及指導内容	<p>○当班は、青年農業者の鳥獣害対策技術向上に向け、捕獲等の実践活動について助言指導しており、今回、青年農業者の園地においてわな猟技術向上実地研修を行った。</p> <p>○同協議会は今年度、県事業「青年農業者わな猟スキルアップ実践事業」を活用し、専門家指導のもと、捕獲から止め刺しに至るまで実地研修を通じたスキルアップに取り組んでおり、今回は獣道の判定や効果的なわなの設置方法について実演を交えながら意見交換した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは捕獲技術について積極的な質疑が交わされ、これまでの実践活動で計7頭(9/30時点)の捕獲に成功しており、わな設置技術が上達したほか、わな免許未取得者はより意欲的に試験学習に取り組んでいるところ。</p> <p>○当班は引き続き、地域の核となる青年農業者の対策技術向上に向け、捕獲による「攻め」と侵入防止柵等の「守り」の両輪による対策指導に取り組んでいく。</p>			
			<p>左：獣道選定とくりわな設置 右：箱わなの蹴り糸の指導</p>	

標 題	北海道の道の駅等と連携した販促活動		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年9月13日～17日	場所	北海道旭川市	
指導対象	—	連携機関	道の駅みま、道の駅あさひかわ他	
普及指導内容	<p>○道の駅みまの農産物の販売額増加には来店客の確保が不可欠である。そこで、当室は、他県の道の駅との産品交流を通じて誘客効果の高いアイテムを確保するため、北海道で開催された全国の道の駅が参加するイベントにて、農産物等の販促活動を行った。</p> <p>○期間中は管内で栽培されているさといもやさつまいも、つるむらさき等の農産物や加工食品を販売するとともに、愛媛県産かんきつジュースを提供した。</p> <p>○また、管内で生産される農産物をリストアップし、他県の道の駅と産品交流の可能性について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○ブースを訪れた消費者の多くはかんきつジュースに興味を示していたものの、一部の消費者は、道内では購入機会が少ないさといもやつるむらさき等の農産物に強く興味を示していた。</p> <p>○協議の結果、今年度中に北海道でさといも等を試験販売し、来年度には管内産スイーツコーンとのセット販売を行う方向で協議を進めるほか、10月に道の駅みまで開催されるイベントで他県の道の駅が特色のある商品を販売することとなった。</p> <p>○今後は「呼び込んだ人を買ってもらう」施策として、商品棚づくりやPOPの掲示等、売り場づくりを提案、支援する。</p>			
				<p>左：管内農産物を PR</p> <p>右：直売所担当者らと産品交流について検討</p>

標 題	来年のうめ豊作に向けて対策を再確認！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年9月20日	場所	松野町延野々 松野町農林公社ほ場	
指導対象	うめ生産者（7人）	連携機関	松野町梅振興会、松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○令和6年産が不作であったことを受け、来年産の収量確保に向けて、うめの夏季管理講習会を実施した。</p> <p>○講習会では、不作の原因となる気象要因を説明した上で、今後の対策として、夏季せん定で徒長した枝を切除することにより、樹内部の光環境が改善され、来年結果する枝において花芽の充実が期待されることや、降雨前の施肥等花芽確保に繋がる対策について重点的に指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「昨年のお気象を比較して、今のところ状況が良いので安心したが、施肥等きっちり実施しないといけない」と基本管理の大切さを再認識する声が聞かれた。</p> <p>○今後は、園地巡回を通じて引き続き夏季管理を徹底するとともに、冬季には関係機関と連携して花芽の確保状況を確認していく。</p>			
				<p>左：うめの不作の原因と今後の対策について指導</p> <p>右：夏季せん定について実演を交えてポイントを説明</p>

標 題	かんきつ産地の活性化を目指し「スマート農業現地シンポジウム 2024in 愛媛」開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月5日	場所	八幡浜支局、八幡浜市真穴	
指導対象	シンポジウム参加者（44人）	連携機関	農研機構西日本農業研究センター	
普及指導内容	<p>○本県と農研機構は、スマート農業技術の導入によるかんきつ産地の活性化を図るため標記催事を開催。全国から応募のあった農業者、関係機関職員などが参加した。</p> <p>○室内会議では、当室がアシストスーツの試着体験を行うとともに、本県と長崎県の試験研究職員が「スマート農業実証プロジェクト※」により実証した成果などを発表した。</p> <p>○また現地見学会では、実証を行っている園地に移動して当室がマルドリ栽培や気象ロボットの活用について指導した。</p> <p>※スマート農業実証プロジェクト …… スマート農業の社会実装を加速化するため国が公募形式で行った実証事業</p>			
結果と今後	<p>○最新のスマート農業技術を学ぶ機会を農業者などに提供することができた。</p> <p>○AI 選果機の見学会開催や視察受け入れによって技術の普及に努めていく。</p>			
			<p>左：実証成果の事例発表 中：アシストスーツの試着体験 右：マルドリ栽培について指導</p>	

標 題	農業女子が京大ゼミ生と意見交換		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年9月21日	場所	八幡浜支局	
指導対象	一次産業女子（∞農 Harvest）（4人）、 京都大学農薬ゼミ生（8人）	連携期間		
普及指導内容	<p>○農業に関心を持つ大学生との交流研修会を開催し、農業への関わり方や農業における女性ならではの悩みについて意見交換した。</p> <p>○会では、∞農 Harvest 会員の園地視察や組織の活動を紹介した後、大学生から活動や取り組み、農産物消費拡大への提言があった。</p>			
結果と今後	<p>○大学生から、安心できる農産物の提供や対面で食べ・飲み比べすることで消費者の関心が高まった事例の紹介があり、面白いことをして興味を引く仕掛けの提案のほか、女性農業者が直面している問題点と解決策についての質問があり、女性仕様の道具の活用や、快適に作業できる工夫事例などを紹介した。</p> <p>○意見交換を通じて、農業の関心を高めるために「かんきつを食べる機会を増やし、知って触れることで消費拡大につなげる」また「農業女子の活動を通して、女性にも優しい農業をアピールしていこう」と申し合わせた。</p> <p>○今後も大学生と交流を深め、食農活動や女性が働きやすい環境整備の参考としたい。</p>			
			<p>左：園地を視察するゼミ生 右：ゼミ生との意見交換</p>	

標 題	一次産業女子グループがマルシェを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年9月7日	場所	農家ほ場（大洲市若宮）	
指導対象	ぷらいまりい会員（4人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○“とっておきの生産物で地域とつながる一次産業女子”を合言葉に活動に取り組んでいる「ぷらいまりい」が、2回目となる夜市スタイルのマルシェを実施した。</p> <p>○当班は、前回の活動結果を踏まえ、消費者に地域農産物や加工品をより身近に感じてもらえる販売方法等の企画や、運営方法等を指導した。</p> <p>○作物の端境期となっている会員のビニールハウスを活用し、生産している農作物に加え、これまでの活動でつながった地元の喫茶店等8店舗が出店。</p>			
結果と今後	<p>○ハウス内をライトアップした夜市マルシェは新鮮なムードが漂い、家族連れなど約120人の来場で賑わった。会員と来場者、出店者との距離も近く、販売したカレーやコーヒーを味わいながら交流を図った。</p> <p>○今後は、恒例活動として定着につなげるため、実施結果を踏まえて事前告知や情報発信の更なる工夫や強化を図るとともに、当班では、PR手法やSNS活用等の先進優良事例を収集し、効果的な情報発信につなげるため支援していく。</p>			
			<p>左：ライトアップした会場 右：ぷらいまりいのブース</p>	

標 題	「内子町フェア in 大阪」販促活動で内子町特産品をPR		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年9月12日～14日	場所	大阪府梅田 ディアモール大阪	
指導対象	直売所生産者及び青年農業者代表等	連携機関	内子町、道の駅内子フレッシュパークからり	
普及指導内容	<p>○内子町産の旬の農産物、特産品等を都市部の消費者にPRし認知度向上を図ることを目的に、大阪梅田駅地下において物産展が開催され、当班は、内子町、生産者等と連携し販売促進活動を実施。</p> <p>○旬のぶどうや梨、特産のじゃばら加工品等を展示即売し、行きかう消費者に新鮮さや品質、機能性などを説明。合わせて町の文化や観光スポットを紹介し、訪れるきっかけづくりに繋げる活動を行った。また、特産品は県外でも手に入ることをアピールし、今後の販路拡大に向けた情報提供も行った。</p>			
結果と今後	<p>○産地直売での価格設定や試食の効果もあり、消費者からは「みずみずしくおいしい」といった感想が飛び交い、シャインマスカットをはじめとした果実について、品質に対する納得感や関心を高めることができた。</p> <p>○物産展を通じて得られた消費者情報を分析、ノウハウを蓄積することで、当班は、内子町と協力し今後の商談やイベント出展活動に活かしていく。</p>			
			<p>左：内子町フェアの全景 右：内子町産シャインマスカット</p>	

標 題	いちご花芽検鏡技術の習得支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年9月13日	場所	大洲庁舎	
指導対象	野菜担当普及員、JA指導員、研修施設担当者（5人）	連携機関	JA愛媛たいき、Pi-Nokyoたいき、産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○いちご栽培においては、毎年、決まった時期に花芽分化をさせて、花芽分化確認後速やかに定植することが、年次変動の少ない安定生産を実現するには欠かせない。</p> <p>○当班は、いちご花芽検鏡技術の向上及び平準化を図るために、栽培技術指導に関わる各関係団体等を含めた若手及び新規担当職員を対象に勉強会を開催。</p> <p>○花芽分化程度の区分をしっかりと理解できるよう、判断の難しい未分化と肥厚初期について具体的に説明するとともに、サンプル苗を用いて、未展開葉の切除方法や花芽の確認など検鏡手順を実演後、実践指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○「検鏡作業が細かい」「花芽が小さく手元の操作が難しい」といった意見があったが、お互いが手順や分化ステージを確認しあうことで、失敗しながらも最終的に花芽分化程度の区分に関する知識や検鏡技術を習得することができた。</p> <p>○管内いちご生産者の花芽検鏡は9/13から下旬まで実施し、適期定植指導によるいちごの安定生産を支援していく。</p>			
 <p>検鏡で花芽を確認</p>				

標 題	大洲市青年農業者協議会が長浜未来協議会と交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年9月20日	場所	大洲市長浜町	
指導対象	大洲市青年農業者協議会及び長浜未来協議会 会員（約20人）	連携機関	大洲市	
普及指導内容	<p>○大洲市と長浜地域の若手農業者等で組織する大洲市青年農業者協議会及び長浜未来協議会の会員が、双方の活動の方向性や取組等に対する理解を深めたいとの意向から交流会を開催した。</p> <p>○両会長から、最近の活動内容及び今後の活動予定について報告後、意見交換会を実施。</p>			
結果と今後	<p>○お互いに地域の担い手として、組織や個人の取組を通じて農業を活性化したいという共通する熱い思いを確認することができ、組織の士気が高まる交流会となった。</p> <p>○今後も引き続き、管内農業の活性化を目指し、両組織の特徴を生かした活動内容の充実を支援していく。</p>			
 <p>集合写真</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>【長浜未来協議会】 若手農業者がR5年度に立上げた任意組織。長浜地域の活性化を目的として、地域行事への参加や荒廃農地再生活動を行い、SNSで情報発信している。 会員の農作物を使用したみかんジュースを製造しており、大洲市内直売所等で販売している。</p> </div>				

標 題	大野ヶ原にんにく出荷反省会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年9月12日	場所	西予市野村町大野ヶ原集会所	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（7人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原にんにくの栽培技術向上と今後の販売戦略を検討するため、出荷反省会を開催した。</p> <p>○本年産は気象条件に恵まれ、収量が増加し、正品率も約30%向上したが、市場での引き合いの強さに対し、十分な生産量は確保できなかった。このため、地域に適した栽培指針を作成・配布し、栽培技術の向上について指導した。</p> <p>○また、今後の生産拡大を見据え、販路開拓に活用できる産地紹介リーフレットを作成した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者間での栽培技術の差が大きく、高額な種にんにく代が負担となり、十分な収益が上がり栽培意欲の低下が見られる生産者がいる。</p> <p>○今後は、ほ場巡回等により栽培技術指導を強化するとともに、種にんにくの自家採取に向け、標高が低い地域での試験を行っていく。</p>			
				<p>左：出荷反省会を開催</p> <p>右：産地を紹介するためリーフレットを作成</p>

標 題	スマート農業技術のもと身近な活用に向けセミナーを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年9月26日	場所	愛媛県歴史文化博物館及びほ場	
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、宇和高校生徒等（83人）	連携機関	西予市、JAひがしうわ、(株)中四国クボタ	
普及指導内容	<p>○農作業の軽労化や省力化が期待されるスマート農業技術を広く紹介し、導入に向けた動きを加速させるため、セミナー及び機器の展示、ドローンの実演会を開催した。</p> <p>○参加者に、県のスマート農業推進方策について説明した後、かんきつ栽培、鳥獣害対策等に係るスマート農業技術を紹介した。</p> <p>○この後、場所を移動し、アシスト機能付トラクターやラジコン草刈機等の展示、ソバ圃場でのドローン実演を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「ドローンによる農薬散布は初めて見た。しっかり散布できており、費用が安くなれば購入したい」などの声が聞かれ、スマート農業技術への認識を深める機会となった。</p> <p>○当班では、今後も軽労化や省力化に向け、展示・実演会等による体験の機会を設けるとともに、導入・普及に向け、補助事業の活用等を支援する。</p>			
				<p>左：セミナーの様子</p> <p>右：ドローン実演</p>

標 題	青ねぎ防除指針の策定と現地視察（夏季研修会）の開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年9月5日	場所	西予市野村町	
指導対象	(株) ノムランド	連携機関		
普及指導内容	<p>○青ねぎ農家から当地域で問題となる病害虫の診断・防除法や安定的な栽培法についての資料作成が求められていた。</p> <p>○関係者間の協議の結果、農家へのヒアリングによる地域実態を反映した防除指針の策定と、農家相互の現地視察を兼ねた夏季研修会を実施することとした。</p>			
結果と今後	<p>○室内研修では、管内で初策定の青ねぎ病害虫防除指針を配布・説明した。農家からは「病害虫の写真があってわかりやすく大変参考になる」と好評を得た。今後は、リアルタイム農業普及指導ネットワークによる診断・防除指導を実施しつつ、より充実した指針への改定も予定している。</p> <p>○現地視察では、青ねぎの栽培法について意見交換した。「今回のように引き続き勉強できる場が欲しい」との声があり、今後も継続的に研修を実施し、産地全体の栽培技術向上に取り組む予定である。</p>			
				<p>室内研修：指針の配布・説明 現地視察：意見交換</p>

標 題	県内女性農業者が一堂に会す交流会を開催！		機関名	農産園芸課企画調整グループ
年月日	令和6年9月13日	場所	伊予市しおさい公園伊予市民体育館	
指導対象	県内女性農業者及び関係者 323名 (内、県内女性農業者 202名)	連携機関	農地・担い手対策室、愛媛県農業会議各局支局地域農業育成室、市町	
普及指導内容	<p>○世代を越えた交流による課題解決に向け、愛媛県農山漁村生活研究協議会員と一次産業女子ネットワーク・さくらひめ等を対象に「愛媛県女性農業者交流会」を開催した。</p> <p>○本会は、各組織が開催してきた大会と交流会を、昨年度から合同開催しているもの。</p> <p>○今年度は参集範囲を広げ、えひめ農業未来カレッジや農業関係高校、学校栄養職員、林業・漁業関係グループ等を加え、さらに幅広い交流を促した。</p> <p>○郷土料理展示やマルシェの他、県内外企業等によるブース展、女性農業者組織等の活動紹介パネル展、式典を実施し、女性リーダーの資質向上と連携体制の構築を図った。</p>			
結果と今後	<p>○アンケートでは「とても良い」「良い」の回答が75%以上で、「各地域の人と交流できた」「応援したいと思った」など前向きな声が多く、交流の重要性を再認識した。</p> <p>○また、県生活研究協議会の大会が第50回の節目を迎えたため、地域郷土料理のレシピ等を集約した記念冊子「愛媛のふるさとごはん2024」を発行し、食の伝承につなげた。</p> <p>○今後も女性農業者組織の活動支援と女性リーダー指導を継続し、地域や世代を超えた連携と農山漁村における女性活躍を推進する。</p>			
				
13地区の多彩な郷土料理を展示		にぎわうブース展の様子		県産農産物や加工品を販売

標 題	いちご花芽検鏡講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年9月9日	場所	農林水産研究所	
指導対象	若手普及指導員等（13人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○若手普及指導員は、現場経験年数が少なく、花芽検鏡技術を習得できていないため、実技を交えた花芽検鏡講習会を開催した。</p> <p>○ベテラン普及指導員が、前処理方法や顕微鏡を使って未展開葉の除去方法、花芽形成確認のポイントなどを手ほどきした。</p>			
結果と今後	<p>○若手普及員からは、「実際に自分がやりながら指導してもらったので、コツがつかめた」「練習をたくさんして、技術を身に付けたい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、若手普及員の技術力向上に取り組む。</p>			
		 <p style="text-align: center;">花芽状況を確認</p>		
		<p style="text-align: center;">【いちご花芽検鏡】</p> <p>顕微鏡を使用し、いちご苗の葉を一枚ずつ取りながら、針で花芽までの葉をめくっていく作業で、花芽分化が確認できると定植可能となる。</p> <p>定植時期や出蕾・開花・収穫の時期を予想する重要な技術。</p>		

標 題	第2回普及指導員野菜調査研究会及びJA愛媛園芸指導員技術研修会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年9月18日	場所	農林水産研究所	
指導対象	JA 営農指導員、普及職員等（53人）	連携機関	JA、普及拠点等	
普及指導内容	<p>○近年、温暖化の影響と見られる冬春・夏秋野菜（露地品目）の異常黄化や葉枯れ等、野菜生産上の問題点や対策について協議・情報共有を行った。</p> <p>○また、農林水産研究所から野菜の生理障害と病害の見分け方について、OATアグリオ（株）からバイオスティミュラントの有効活用について説明を受け、技術力向上に努めた。</p>			
結果と今後	<p>○各地域の野菜生産上の問題点や実施している対策について協議・情報共有を図ることができた。</p> <p>○また、本県野菜の品質・収量向上に向け、県全体としての技術力向上を図った。</p> <p>○今後も関係機関が連携しながら、温暖化対策に取り組む。</p>			
				
		<p style="text-align: center;">【バイオスティミュラントとは（EUの場合）】</p> <p>植物または植物根圏について、以下の特徴の1つまたは複数 を改善することのみを目的として、製品の栄養成分とは独立して植物栄養プロセスを促進する製品を意味する。</p> <p>①栄養素の効率的な利用、②非生物的ストレスに対する耐性、③品質特性（の向上）、④土壌または根圏に固定された栄養素の利用。</p> <p>OATアグリオでは、植物が本来持つ免疫力を高め、耐寒性、耐暑性、病害虫耐性及び成長を促す物質や技術の総称と定義付け。</p>		

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543